平成３０年度　自己評価計画書に対する最終評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析及び来年度への展望《改善策等》
1 学習意欲を向上させ、個に応じた進路実現を確かなものにする。 平成３０年度学習指導方針をもとに主体的･対話的で深い学びの視点による授業実践に努める。	①	校内で全ての教員が研究授業・公開授業を行い、授業参観の機会を増やす。また、中学校授業参観に積極的に参加し、ＩＣＴの有効活用など「相互のスキルアップ」をはかり、授業改善を促進する。	教務課 各教科	他の教員の授業や中学校の授業を参考に授業改善を行っていると答える教員の割合が Ⓐ　９０％以上である Ｂ　８０％以上である Ｃ　７０％以上である Ｄ　７０％未満である	２月の教職員アンケートで ９６．３％	昨年度までは授業参観回数を基準にしたが、今年度は授業改善に目を向け、全教員が公開授業または研究授業を行うこととした。これまで大半の教員が授業公開を行ったが、中にはタブレットの有効活用、対話を重視したグループ活動などを取り入れた授業もあり学校全体として研究している雰囲気が少し出てきた。今後は、タブレットの効果的な利活用について研修を行い、多くの教員がタブレットを効果的に使用できるようにしたい。
	②	授業参観や校内外での研修を通して、タブレット等のＩCT機器を活用した、より効率的で効果的な授業を実践する。	教務課 情報課 各教科	本校の教員はタブレット等のＩＣＴ機器を活用して、わかりやすく興味の湧く授業を実践していると答える生徒の割合が Ａ　９０％以上である Ⓑ　８０％以上である Ｃ　７０％以上である Ｄ　７０％未満である	１月末の生徒アンケートで ８０．７％	昨年の７５．８％を上回り、パソコンやタブレットを用いた授業が多く見られるようになった。教科によっては毎時間活用している授業もある。活用しにくい教科についても、今後研究を奨励していく。タブレットについては新たに購入する予定であり、校内研修会を開催するなど普及に努め、わかりやすく魅力のある授業づくりを目指したい。
	③	「言語活動の充実」という共通のテーマで生徒の学力向上に繋がるより効果的な言語活動を授業実践を中心に学校全体で行う。	教務課 各教科	言語活動の充実を意識して、定期的に主体的・対話的な授業実践に取り組んでいる教員の割合が Ⓐ　９５％以上である Ｂ　８５％以上である Ｃ　７５％以上である Ｄ　７５％未満である	２月の教職員アンケートで ９６．１％	「いつも意識して取り組む」と「ときどき意識して取り組む」の割合ではＡ評価であるが、評価の基準を「いつも意識して取り組む」だけにすると６３．８％である。しかし、生徒が他の生徒と話し合ったり、自分の考えを発表したりする場面を設けるようにする授業は確実に増えており、今後も奨励し、互見授業にも絡めて取り組みたい。
	④	家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、定期テストと結びつけるなど計画的に学習する習慣をつける。	教務課 各学年 各教科	１日の学習時間（授業以外の学習時間）が２時間以上であると答える生徒の割合が Ａ　５０％以上である Ｂ　３０％以上である Ｃ　１０％以上である Ⓓ　１０％未満である	１月末の生徒アンケートで ８．５％	各学年・各教科の指導の効果が現れていない。定期試験とは関係のない時期の調査であるが、学習習慣が定着していればもう少し数字は上がったであろう。本校の生徒が試験前しか勉強しないことが明らかになった結果である。学習することの意義から理解させなければならない。
	⑤	進路シラバスを作成し、計画的なキャリア教育を行うとともに個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう支援を行う。	進路指導課 各学年	本校でのキャリア教育が意義あるものとなっていると答える生徒の割合が Ａ　９０％以上である Ⓑ　８５％以上である Ｃ　８０％以上である Ｄ　８０％未満である	１月末の生徒アンケートで ８６．３％	昨年の８０．５％を上回り、充実したものになってきている。本校のキャリア教育はＰＴＡ、卒業生など外部を巻き込みながら行っており、今後も外部人材を大いに活用し、生徒が自らの進路について考える機会を多く与えていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・聞くだけではわからないが、見ると課題も見えてくる。アクティブラーニングにも繋がると思う。「やりなさい」から「やりたい」と思わせることが必要である。 ・プロジェクタを使った授業が多くあったが、すべて持ち込み式のもので大変面倒である。お金はかかるが備え付けのプロジェクタにできないものか。 ・過去５年間の授業評価によると、情報機器の使用が数学、理科で伸びているが英語の授業理解や集中度が下がっているのは気になるところである。 ・iPad にパワーポイントやワードなどを無料で入れることが出来るので活用すると良い。生徒一人ひとりに iPad を持たせ、ロイロノートを導入すれば宿題の提出などを親が確認することができるなど便利である。 ・家庭学習時間を２時間以上求めるのが目標だが、例えば「３０分以下をなくす」ための方法を考えて取り組むことも大切ではないかと思う。
学校関係者評価委員会の評価結果を 踏まえた今後の改善策	○平成３１年度も教員全員が研究授業や公開授業をおこなうこととし、また、中学校の学校公開を利用した校種をまたいだ交流を続け、引き続き授業改善に努めていきたい。 ○備え付けのプロジェクタはありがたいものだが、本校では専用のワゴンに設置しており、他校に比べると比較的平易に準備ができる。 ○情報機器の使用については、研修会を充実させるなど引き続き重点的に取り組んでいきたい。また、基礎的な学力を充実させる取組を考えていきたい。 ○iPad の活用については、生徒用のものを購入しており、今後マニュアルを作成し教員の研修も充実させたい。 ○家庭学習については、進路実現のために必要であることを十分認識させ、生徒の実情に応じた課題を与えていきたい。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析及び来年度への展望《改善策等》
２	学校の魅力を更に磨き、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。 校種間交流や地域と連携した取り組みを積極的に行い、広報活動を充実させる。	①	地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各ｺｰｽ	各種の交流活動が活発であり、広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が Ａ　９５％以上である Ⓑ　９０％以上である Ｃ　８５％以上である Ｄ　８５％未満である	１２月末の保護者アンケートで ９２．４％	生徒を通じての学校からの通知や配布物が確実に手元に届いているという保護者の割合が昨年低かったため、今年はメール配信をさらに充実させた。その結果、今年度も高い数値を得ることができた。今後もホームページの充実や重要な連絡等が確実に保護者に届くよう生徒を指導していきたい。
		②	ホームページの更新により内容もさることながら即時性にこだわる一方、地域や小中学校等との交流や学校行事などを通して、本校の特色ある教育活動の様子を積極的に発信する。	総務課 各ｺｰｽ	担当する課や部活動等のホームページの更新回数は年５回以上であると答える教員が Ａ　８５％以上である Ｂ　７５％以上である Ｃ　６５％以上である Ⓓ　６５％未満である	２月の教職員アンケートで ３２．１％	学年通信をＨＰにアップしたり、行事後にニュースとして更新したりする部署が増え、ＨＰの更新回数は昨年より多くなっている。しかし、自分自身が更新している回数を回答したのか予想以上に低い評価となった。約８割の教員が１回以上は更新しているとのことであるから、次年度も強く呼びかけていきたい。
		③	保護者の携帯電話のメール配信登録について登録完了届の提出を求めることで、１００％を目指し、家庭との連携を深めて本校の教育活動の円滑化と活性化を図る。	総務課 各ｺｰｽ	メールを登録している保護者の割合が Ａ　９５％以上である Ⓑ　９０％以上である Ｃ　８５％以上である Ｄ　８５％未満である	１月末現在で ９２．３％	９月末の９１．４％から若干名ではあるが、登録件数が増え、昨年並みとなった。行事などの連絡ばかりでなく、緊急時や災害時に有効な手段であり、必要性を訴え、今後も１００パーセントを目指して取り組んでいきたい。
		④	地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開し、地域の方々と積極的に関わる機会を増やす。	生徒課 各学年	生徒が近隣地域での各種ボランティア活動に参加する回数が Ａ　６５回以上である Ｂ　５５回以上である Ⓒ　４５回以上である Ｄ　４５回未満である	１月末現在で ４９　回	生徒会、部活動、音楽専攻、美術専攻の生徒を中心に近隣の学校や施設を訪問し、各種ボランティア活動をこれまで以上に積極的に行った。昨年度の５１回を下回っているのは、今年度はここまで大雪になることがなく、地域の除雪ボランティアに出向くことがなかったためである。今後も、年間を通して近隣地域での各種ボランティア活動に取り組む機会を提供していきたい。
		⑤	地域の方々や保護者とともに行う行事の中で生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう生徒自らが主体的に企画・運営する。	生徒課 各学年	学校行事や生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒の割合が Ａ　９０％以上である Ｂ　８０％以上である Ⓒ　７０％以上である Ｄ　７０％未満である	１月末の生徒アンケートで ７３．０％	辰巳祭のような行事の後のアンケートではほとんどの生徒が積極的に参加したという結果が出ている。他の行事や活動にも生徒自身が企画・運営するなどの部分をつくり、充実感や達成感が得られるようなものを取り入れていけばよい。
		⑥	全教職員で協力し、時間の大切さを自覚させる一方、保護者との連携を図りながら遅刻の減少を目指すことで規範意識の高揚に努める。	生徒課 各学年	年間を通して遅刻５回以上の生徒数が Ⓐ　２５人以下である Ｂ　３０人以下である Ｃ　３５人未満である Ｄ　３５人以上である	１月末の集計で ２５　人	昨年度の３６人を１０人以上減らすことが出来た。今年度は悪天候の日が少なかったこともあり、例年のように冬に入って急激に遅刻者が増加することはなかった。また、朝学習強化週間や徹底した遅刻指導、保護者との協力体制構築などの取組の効果が出てきたといえる。今後もさらに保護者と連携し、遅刻の減少に努めていく。
		⑦	個人面談を充実させ、生徒の様子を観察することにより、いじめ等の問題には早期にいじめ問題対策委員会（対策チーム）を中心に全教職員で連携し、解決にあたる。	生徒課 教育相談室 各学年	各課・学年と連携がとれて、いじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が、 Ⓐ　９０％以上である Ｂ　８０％以上である Ｃ　７０％以上である Ｄ　７０％未満である	１月末の教員アンケートで ９７．１％	昨年の８８．９％を大きく上回った。生徒指導上の問題は生徒指導課、教育相談室や管理職と連携して対処している。いじめ問題に対しては、外部機関とも連携している。徐々に人間関係が安定し、後期に入ってトラブルはあまり見られなくなってきた。次年度は４月の初期指導を強化し、問題を未然に防ぐ努力をしたい。

学校関係者評価委員会の評価	・時には生徒を信じ、生徒自身にルールを決めさせるのもよいと思う。自分たちの決めたことは守ると思う。 ・市の雪かきボランティアに登録してもらってありがとう。通学路の除雪はよろしくお願いします。ボランティアを行うことはとてもよいと思います。ぜひ勧めて下さい。ただし、嫌々やるのではなく、自分が認められていると思えることが必要で、仕掛けは大人がしなければならない。 ・先生方は資源をよく使いその努力はすばらしいと思う。それでも少子化で学校規模が小さくなるのはしょうがないと思う。難しいことではあるが、何とか存続していってほしい。 ・辰巳丘高校を中学生が知る取り組みをはじめとした、中高連携の必要性を感じている。例えば、保護者の見学会、高校の先生による中学生への説明などがある。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	○頭髪や服装、時間を守ることは、社会生活の基本であることを生徒との間で共有し、生徒の意識改革を進めていくとともに必要な指導を行っていきたい。 ○生徒が地域社会に溶け込み、地域の皆さんと一体となって活動できるよう手配するともに、生徒の自主的な活動を助言するなど必要な支援を行っていきたい。 ○本校の教育活動を広く県民に周知するため、広報活動を一層充実させていくとともに、地域や小中学校との交流の機会を増やし「辰巳丘」のファンの獲得を図っていきたい。

重　点　目　標		具　体　的　取　組		主担当	達　成　度　判　断　基　準	集計結果	分析及び来年度への展望《改善策等》
３	授業準備や自己研鑽の時間を確保し、より質の高い授業や個に応じた学習指導を行う。 学校や教員が担う業務を整理し、実情に合わせて業務の役割分担・適正化を図る。	①	職員の長時間労働を改善し、一人ひとりの子どもに丁寧に関わりながら、学習指導、生徒指導などの本来的な業務に専念できる環境づくりを進める。	管理職 各課・室 各学年	組織が有機的に機能していると答える教員が Ａ　８０％以上である Ⓑ　７５％以上である Ｃ　７０％以上である Ｄ　７０％未満である	１月末の教員アンケートで ７６．４％	９月末の教職員アンケートでは 66.7%であった。本校は学年毎に職員室が分散しており、学年をまたいだ協力体制がとりづらい。また、教員数が年々減少しているため、一人が担う役割が徐々に増えている。しかし、補習の学年を超えた協力などは不可欠なものである。学年・教科・課が様々な形で連携をはかりながら、働き方改革に取り組んでいきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・これだけのものを持っている学校は全国的に見ても少ない。民間・地域などにオープンにすれば協力者がいるのではないか。 ・生活するのが精一杯な家庭の子に関しては先生方の努力では限界がある。学校だけでは無理であり、外部の機関を使うことは必要である。 ・先生方が元気であることが生徒の元気に繋がるので、先生方も一人で抱えることのないようにしてほしい。先生方は暗い顔を絶対しないで楽しんでやって下さい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	○職員室が分散していることから、教員どうしの一層の連携を図るため、情報交換の場（場所・機会）を設けていきたい。 ○教員が悩み消耗していくことの無いよう、管理職は積極的に各職員室を回り意見交換や必要な指導助言を行うことで、円滑な校務運営を目指す。 ○専門的な知識を持った地域人材の協力を得て、校務の遂行にあたっていきたい。